

平成27年10月20日

資料2-5

第1回一類感染症に関する検討会

西アフリカにおけるエボラ出血熱流行への対応
-医療従事者及び専門家研修と患者治療体制の整備-

国立研究開発法人 国立国際医療研究センター
国際感染症センター 国際感染症対策室

加藤 康幸

How We Are Working to Stop the Ebola Outbreak

社会啓発

01



Case Management

患者の治療

積極的疫学調査

02



Case Finding,
Contact
Tracing

03



Safe and
Dignified
Burials

安全な埋葬

04



Social
Mobilization



UNMEER

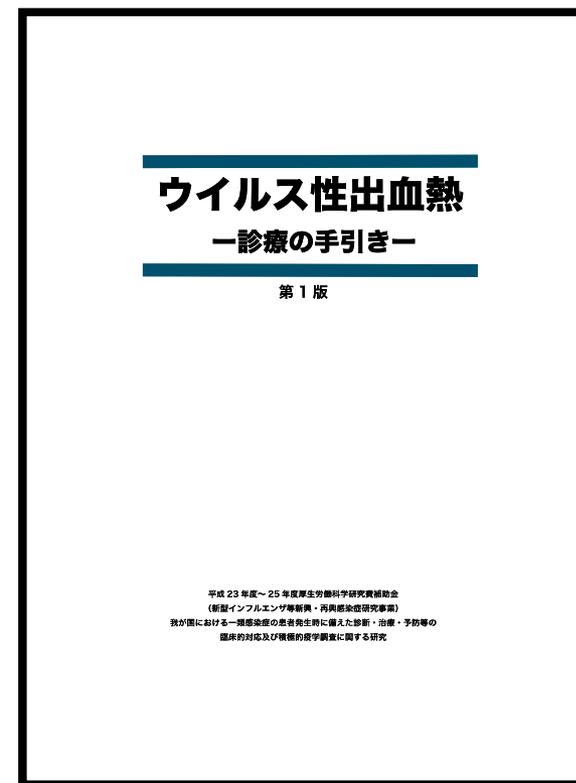
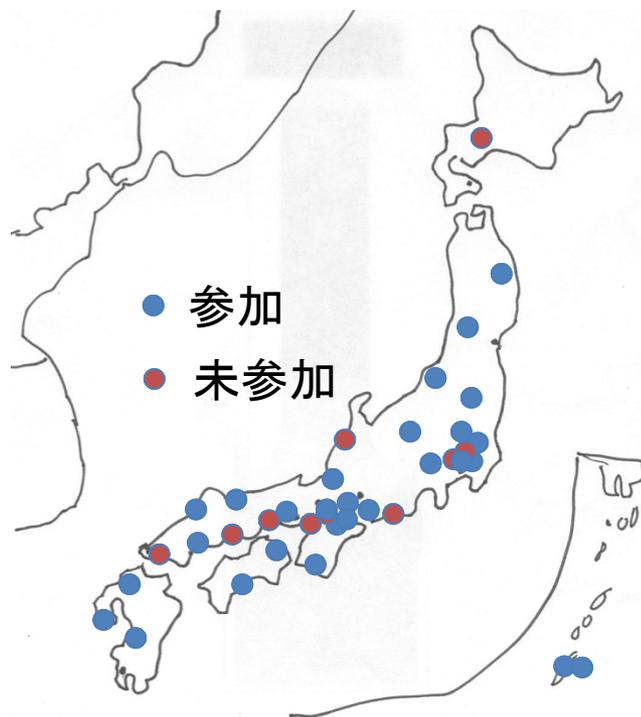


GLOBAL
EBOLA
RESPONSE

Zero
Cases

一類感染症臨床対応研究班によるこれまでの取り組み

- 2011-13年度に英, 独の専門家を招聘した研修会を国立国際医療研究センターにおいて3回開催(全国的な研修会として初)
- 第一種感染症指定医療機関31施設(76%)から医師・看護師74名が参加
- 診療の手引きを作成



厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業
我が国における一類感染症の患者発生時に備えた診断・治療・予防等の臨床的対応及び積極的疫学調査に関する研究

西アフリカにおけるエボラ出血熱への対応

第一種感染症指定医療機関への支援

(厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業・国際医療研究開発事業)

- 一類感染症ワークショップ(出張研修)
- 感染症対策研修会(2014年11月に都内で2回開催)
- 検査技師を対象としたバイオセーフティ研修会
- チェックリストを用いた準備状況の評価

西アフリカ派遣専門家の研修

(厚生労働科学研究費補助金新型インフルエンザ等新興・再興感染症研究事業)

特定感染症指定医療機関におけるファビピラビルの臨床試験

(厚生労働科学研究費補助金医療技術実用化総合研究事業)

一類感染症ワークショップ(出張研修)

開催準備

2014年9月から第一種感染症指定医療機関のうち、研修希望施設について日程調整

講師の確保(国立国際医療研究センター7名、他感染症指定医療機関6名、国立感染症研究所1名、大学1名)

内容

西アフリカ派遣者によるエボラ出血熱の講義

疑似症患者の定義と院内・行政対応手順の確認

施設と個人防護具など準備状況の確認

一類感染症ワークショップ開催状況(2014年度)

開催月	医療機関	内容	参加者数(主な院外からの参加者)
10月	盛岡市立病院	講義・机上訓練・施設確認	78(他院・県)
	都立墨東病院	講義・机上訓練・施設確認	182
	市立堺病院	講義・施設確認・実習	265
11月	静岡市立静岡病院	講義・机上訓練・施設確認	107(県・市・消防・他院)
	成田赤十字病院	講義・机上訓練・施設確認	120(警察・消防)
	大津市民指定機関・	講義・施設確認・実習	129(県・消防)
	兵庫県立加古川医療センター	講義・マニュアル確認・実習	99(県・消防)
12月	岐阜赤十字病院	講義・机上訓練・施設確認	67(大学・県・市・他院)
	東京都保健医療公社荏原病院	患者搬送訓練	95
	長野県立須坂病院	講義・施設確認・実習	83(県・消防)
	琉球大学医学部附属病院	講義・机上訓練・施設確認	82(県・他院)
	大阪市立総合医療センター・ 大阪市立大学医学部附属病院	講義・患者搬送訓練	425(市)
	福島県立医科大学附属病院	講義・施設及びマニュアル確認	68(県・警察・宮城県・仙台市・検疫)
1月	高知医療センター	講義・机上訓練・施設確認	75(県・警察・検疫)
	岡山大学病院	講義・机上訓練・施設確認	36(県)
	長崎大学病院	施設確認	12
2月	佐賀県医療センター好生館	講義・机上訓練・施設確認	57(県・消防・警察・検疫)
	徳島大学病院	講義・机上訓練・施設確認	83(県)
	熊本市市民病院	講義・机上訓練・施設確認	68(県・市・消防)

チェックリストを用いた第一種感染症指定医療機関の状況調査 (0～3点で評価; 2015年1～2月: 6施設で実施)

大項目(それぞれ3～18 の細項目あり)	中央値	最小値	最大値
施設(感染症病棟)	2.33	1.00	2.33
院内組織	3.00	1.00	3.00
健康・安全管理	1.42	0.75	2.20
外部機関との連携	2.55	1.00	2.82
コミュニケーション	1.44	0.75	2.25
診療	1.25	0.75	2.83
検査	2.08	0.00	2.17
個人防護具	2.50	2.25	2.75
廃棄物処理・清掃	2.08	1.67	3.00
死後のケア	1.17	1.00	2.83

研究分担者: 富尾淳(東京大)ほか

検査技師を対象としたバイオセーフティ研修会

2015年2月14日・15日(国立国際医療研究センター・国立感染症研究所)

対象者と目的

第一種感染症指定医療機関と地方衛生研究所の検査技師を対象

第一種感染症指定医療機関(42施設)、地方衛生研究所(4施設)などから83名が受講

病院検査室でのバイオセーフティ研修と施設間の情報共有を目的

講義内容

エボラ出血熱の流行と実験室診断

病院検査室のバイオセーフティ

海外旅行者の診療・検査

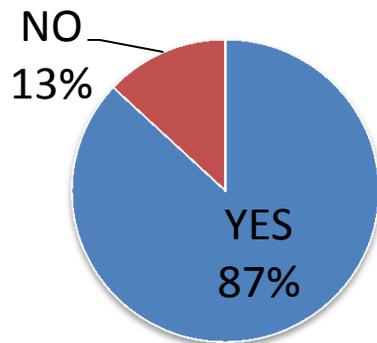
疑似症患者の事例検討

第一種感染症指定医療機関における現状(46施設) (2015年2月アンケート調査実施)

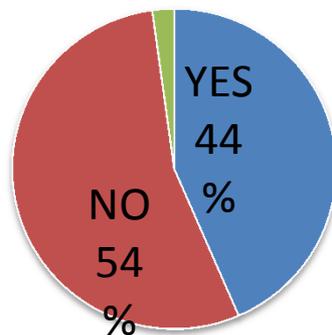
自施設で実施可能な検査

専用機器の保有状況

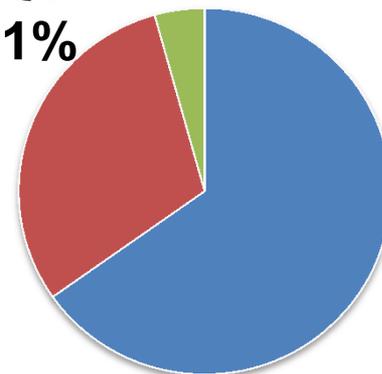
マラリア



デング熱



保有してい
ない, 31%



保有している, 65%

西アフリカ派遣前専門家研修

対象者と目的

世界保健機関の短期専門家として派遣が予定される者を対象

2014年10月、12月、2015年3月に計3回開催、29名の専門家が受講

現地での円滑な活動開始と専門家間の情報共有を目的

内容

講義(厚労省・外務省・JICA・国境なき医師団)

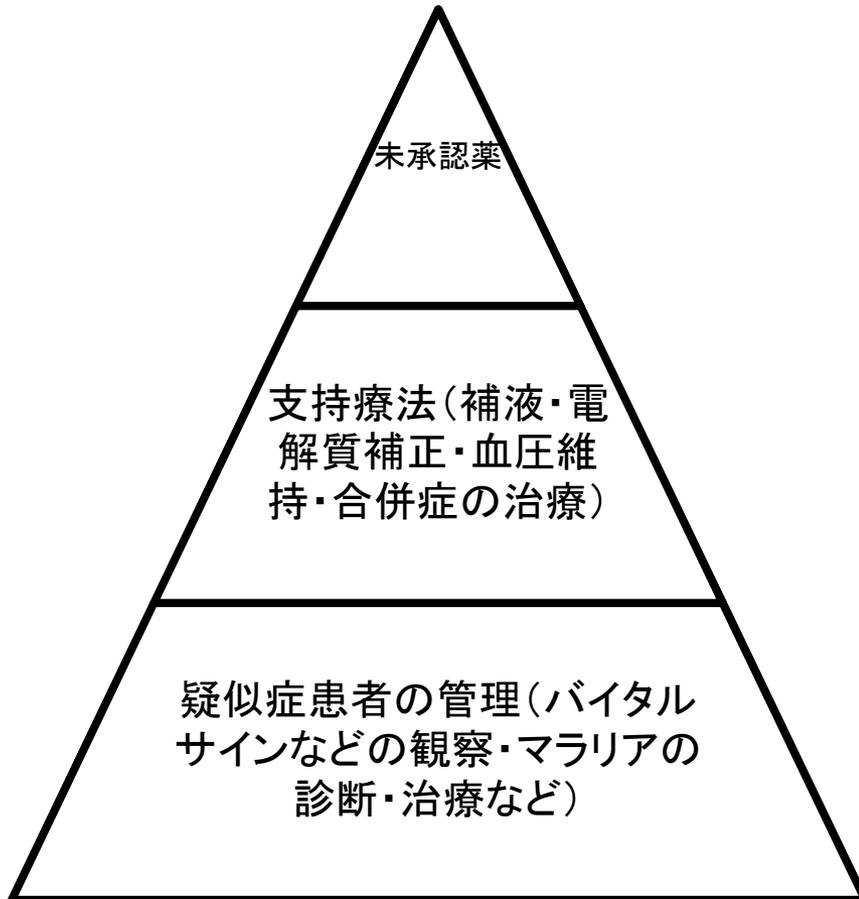
現地報告(帰国者)

座談会(講師・受講者全員)

個人防護具着脱

研究分担者: 足立拓也(豊島病院)ほか

特定感染症指定医療機関における患者治療体制の整備



未承認薬投与体制の準備

- 未承認薬等による治療については、患者又は家族の同意を得るとともに、臨床研究プロトコール等の倫理的、医学的な判断が十分なされた方法に従って実施
- 適応については、一類感染症の治療に関する専門家会議の助言をもとに判断